

ヤクシカ個体数調整(西部地域計画捕獲) 取組年次計画(改訂版)

カテゴリー	地域・場所	背景と課題		ヤクシカ管理計画(第2種特定鳥獣管理計画)での年度				今期管理目標終了時点における到達目標
				H28年度(2016年)	H29年度(2017年)	H30年度(2018年)	H31年度(2019年)	
・密度が高い西部地域県道沿い	・県道沿線の国有林、県有林 ・半山、川原、ヒズクシなど	・生息状況調査等で生息密度が高く、森林更新、下層植生や土壌流出への影響が危惧。 ・行動圏調査(H23年度実施)から、特にメスは行動範囲が比較的狭く、あまり移動しない。 ・誘引試験(H26年度実施)から、日中でも頻繁に出没し、給餌エサに一度に3頭以上誘引。 囲い罠での誘引試験(H28年度実施)でも誘引できたが、罠には入らず周囲を多数の個体がうろつく状況が生じた。 ・生息密度低下による下層植生回復等は、植生保護柵内外の状況の差異から期待できるが未知 ・囲い罠等での捕獲による反応(警戒心の昂進や誘引効果の変化)は予想懸念はされるが未知	局所的な目標と目的	・囲い罠を使った誘引試験等捕獲手法、実施体制検討、課題整理(実施中)	・密度操作実験計画の検討、課題整理 ・実施体制、役割分担検討 ・関係者・団体等によるコンセンサス	・密度操作実験計画開始(～H35年度)	・密度操作実験計画2年目	◎現地検討会や説明会等により、西部地域でのヤクシカ管理の必要性とその実施に関する理解が得られている ◎一般狩猟と保護地域内での計画捕獲との役割分担に関するコンセンサスが得られている ◎計画捕獲の本格実施に先立つ密度操作実験が開始されている
			全体的な目標と目的					
			取り組みの体制	・誘引試験用囲い罠での給餌。誘引状況、効果の記録 ・計画捕獲に向けた実施体制検討と課題の抽出整理 ・各行政機関(国、県、町)は、連携してヤクシカの個体数調整に取り組む。	・WGメンバーその他の研究者、関係行政機関、関係団体等の参加	・関係行政機関等の参加	・関係行政機関等の参加	◎理解促進、計画作成、体制構築がなされ、密度操作実験が開始されている。
			取り組みの内容	・囲い罠を設置して、給餌を行い、誘引状況・効果から手法上の効果や懸念事項等を整理 ・誘引試験結果を踏まえた捕獲実施体制の検討と課題整理	・現地説明と理解促進 ・密度操作実験の捕獲手法、植生等回復状況監視評価の方法等計画を検討 ・課題抽出と解決策検討 ・実施体制・役割分担検討	＜密度操作地区＞ ・囲い罠等による捕獲・シカ行動、捕獲効率等調査 ＜密度操作地区+対照区＞ ・シカ生息状況調査・植生等回復状況調査	＜密度操作地区＞ ・囲い罠等による捕獲・シカ行動、捕獲効率等調査 ＜密度操作地区+対照区＞ ・シカ生息状況調査・植生等回復状況調査	
			WG内での報告と協議	・当該年度の取組状況について第2回WGで報告。次年度取組予定について説明、助言、コンセンサスを得る	・現地検討会の結果および密度操作実験計画について、第2回WGで報告・説明。	・第2回WGで、本年度実施状況を報告。次年度修正事項等を議論。	・第2回WGで、本年度実施状況を報告。次年度修正事項等を議論。	
			アウトリーチ			地域住民、観光関係者等への説明会		◎西部地域でのヤクシカ管理の必要性とその実施に関する理解が得られている
備考・注				・囲い罠による捕獲を実施し密度低下後にSS等に手法変更していく考えで当初計画作成	・1/10会合での検討を踏まえて立案			